

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第7号
2023年9月1日
編集・文責 吉成正士

(6号からのつづき)

みんなが真剣に聞いてくれているから安心

■沖縄の地上戦のことを学んだ時も、今日参加した人権集会でも、自分はまだまだ知らないことがたくさんあるんだなと実感しました。また、他の人の意見を聞いて、自分以外の人の意見が私と同じような人もいれば、まったく違う人もいて、「そんな考え方もあったんだ」と驚くこともたくさんありました。

吉成先生の話で言っていた「線」の話では、「線の向きを変える」という発想が私にはなかったので、すごいなと思いました。

今日の集会では、私も発表をしました。戦争を体験した人から話を聞いた人、と質問をされたので、手を挙げると発表という流れでした。自分から進んで発表したとはいいいがたいのですが、それでも勇氣はたくさんいるし、自分の伝えたいことをうまく伝えられなかったらどうしようという思いもありました。でも、みんなが真剣に聞いてくれているのを見て、安心して発表することができました。

(5組HM)

えらい！すごい！よく頑張りました。一つ一つの発表が自分を成長させてくれます。

この、「みんなが真剣に聞いてくれて」というところが大切ですね。聞いてない雰囲気、ざわざわとよそ事をしている雰囲気、あくびなどをして退屈そうにしている雰囲気があると、「どうして自分がこんな思いをして発表しているのに、こいつらはこうなんだ！」と腹も立つし、「もう二度と言うもんか！」と、線を横に引いてしまってもおかしくはありません。それではいけないのですが…。それでも、線を縦にして、「私」と「あなた」をつないでいかねばなりません。そのための力を、自分につけていくことです。いろんな人からいろんなことを学び、自分という人間を成長させていくことです。



日々の生活を見つめなおし、生かす

■私は全体人権集会に参加して、1の問い「平和学習を通じてどんなことを学び、どんなことを考えましたか。実際に戦争を体験した人から話を聞いたことはありますか。聞けるなら聞いておきましょう。どんな話でしたか。」に関して、橋本さんが祖母の話をしてくれました。その話のなかで、飛行機から油(焼夷弾)が落とされていたと聞きました。その後の吉成先生の話では、その火を国民全体で消すようにしなければならない法律があったと知りました。私はそのとき、国は国民の味方もしてくれないし、国民は国に反論することができない状況だったのかなと思います。この話を踏まえて、吉成先生が言っていた「想像力」「共感力」「線引き」という言葉は私たちの普段の生活にかかわっていなくても、間接的にかかわっており、それを次世代につないでいく、線の向きや想像の仕方を180度回すことで、途切れない人々の思いが繋がっていくと思いました。

酒井さんの、「戦争はなくせるかじゃなくて、なくさなければならないもの」という意見を聞いて、私自身、なくすための努力をしているのか、どうしたらなくせるようになるのかを考えました。やはり、自分にできることは、日々の生活を見つめなおすことしかありませんでした。友達への軽視などは命への冒涇^{ぼうとく}へつながり、それは戦場に置かれた人々の経験を無駄にし、その人を冒涇していることになりました。だから私は、日々の生活から見つめなおし、それを生かしていきたいです。(3組OS)

どうしてそんなおかしい法律ができてしまったのか。正しい情報がちゃんと知らされていなかったことや、逆に間違った情報を信じ込まされていたことが原因の一つとしてあると思います。でも、「あれ？おかしいぞ」と思ったことに、「おかしくない？」と言えないことも、大きな原因の一つです。

おかしいと思ったことに、「おかしい」と言えなくなると、どんどんおかしい方向に進んでしまいます。おかしいと思ったことが、本当におかしいことかもしれませんが、それはそう思ったときに改めればいいだけのことです。とにもかくにも、おかしいと思ったことには、「おかしい」と言ってみることです。

でも、言ったことが許されそうにもないなら、言うにくいですね。ということは、どんなことを言っても許されるような関係性、環境、世の中にしていこうが必要だということになるのではないのでしょうか。

どうでしょう、皆さんの周りは、何を言っても許されるような関係性でしょうか。それとも、許されないような雰囲気でしょうか。もしそうだとしたらそれは、

戦争に近づいているということかもしれません。



「双方生きる道はないのか」

■私は今回、奥村さんの話で思ったことを書こうと思います。話の内容は、NHKで見た平和憲法はいるか、いらんか、という話で、私はその結果を知り、すごく驚きました。隣の人と視線合わせるくらいに。私は奥村さんの話を聞くまでは、「どうせ戦争は少なくなるだろう」と思っていました。けど実際は、復讐のために平和憲法をなくす方がよいと思っている人がいて、「人それぞれに意見がある」というのを理解することができました。「戦争をなくすためには語り継ぐことが大切」が、私が今まで平和学習を勉強してきて学んだことなのですが、人それぞれで、その語り継ぐ内容だとか、それを聞いてどう感じるのかも違います。

今朝ニュースを見ていて、ウクライナとロシアの戦争を見ました。奥村さんの話を聞いて、この人たちはこの経験をどう感じるのかが、とても気になりました。これから先、戦争経験者もどんどんいなくなって、語り継ぐ内容も様々な憶測で内容が変わるかもしれません。だから私は、「自分」ではなく、「全体の利益」を考えたいと思います。どういうことかという、NHKでの人の復讐は、あなたの利益だけけれど、小さい子どもたち、あなた以外の人には利益ではなく不利益だよね？ということです。戦争時の日本の空気と正反対の空気を作っていきたいです。洗脳しちやいます。なぜなら、「戦争が一番の人権侵害であり、命への冒涇」だからです!!

(5組NH)

日本国憲法第9条

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。」

せっかくの機会です。憲法第9条、知っておいてください。

おそらく正確に言うと、5月3日の憲法記念日に合わせてNHKが行った世論調査の結果ではないかと思います。この日に合わせて、毎年いろんなところが世論調査をしています。覚えていれば、来年注目して見てみてください。

そこで、憲法9条の改正について、「改正する必要があると思う」が32%、「改正する必要はないと思う」が30%、「どちらともいえない」が34%という結果が出ています。つまり平和憲法を、時代に合ったように変えた方がいいのではないかと考える人が上回っているということです。実はこの現象は昨年度から起きています。なぜか。

ロシア・ウクライナ情勢が追い打ちをかけたのです。もともと以前から日本の周りでは、北朝鮮の核開発やミサイル発射、中国の軍備拡張や海洋進出など、不穏な問題がありました。そこにロシアによるウクライナ侵攻が始まったので、いずれ日本も…と考える人が増えたわけです。そう考えると、憲法9条を改正して、戦争のできる国にしていけないと！と考える人が増えてもおかしくありません。しかし、果たして本当にそうだろうか、と私は思っています。



今、世界は、超大国同士による、「仲間の国の取り合い」と、それによる対立が起きているような報道がされています。それに煽られ、白か黒か、○か×か、敵か味方か、のような選択に迫られているように感じます。けど、そもそもその報道自体を鵜呑みにしてしまう怖さがあります。そのように報道されれば、そういった道しかないように思いがちですが、もしかすると、別の道だってあるかもしれません。白でも黒でもなく、グレーも。○でも×でもなく、△や□も。敵でも味方でもなく、第三者も。そんな可能性を考えることはできないでしょうか。

ジブリアニメに「もののけ姫」という映画があります。そこで主人公のアシタカが、敵対する「森」と「タタラ場」の双方に向けて言い放つシーンがあります。「違う！森とタタラ場、双方生きる道はないのか」

今の日本の50代以下は、ジブリ映画で育ってきた世代です。ジブリの文化にふれてきた世代です。今一度このセリフを考え、立ち止まってみてはどうでしょうか。立ち止まろうとする人が声をあげなくなれば、間違いなく争いが起こることを、先の大戦から学んでいるはずなのですから。

(8号につづく)